

# 創業・新事業展開型 池内タオル株式会社

「風で織るタオル」環境に配慮した安全安心なタオルブランドによる事業展開

四国支部 プロジェクトマネージャー 中庭 正人

## 【ポイント】～新事業開拓から株式公開へ向けた総合支援～

池内タオル(株)は平成15年に取引先の破綻により民事再生を申請するが、池内社長のリーダーシップの下、安全・安心・環境にこだわる「風で織るタオル」のブランド化で再生を果たした。民事再生を果たした同社の課題は、運転資金、設備資金の新規調達であり、運転資金の関係で大型受注等を諦めざるを得ない状況も発生していた。そこで、平成20年2月にファンド in Tokyoへ参加、ベンチャーファンドより約6,000万円の出資を受け、事業の拡大に向けて活動している。また、企業OB等人材派遣事業を活用し、新規分野の子供服業界へ進出している。

## 企業概要

- ▶ 企業名：池内タオル株式会社
- ▶ 業種：タオル製造
- ▶ 本社所在地：愛媛県今治市延喜甲762番地
- ▶ 資本金：87百万円
- ▶ 設立：昭和28年2月
- ▶ 売上高：360百万円
- ▶ 従業員数：27名



代表取締役 池内計司社長

池内タオル(株)は今治市で「環境に優しく、安心安全」をコンセプトにモノ作りを行っている。平成19年度には、モノづくり300社への認定、新エネルギー大賞 審査委員特別賞を受賞している。

同社は、平成15年に取引先の倒産により民事再生を申請した。当時は、OEMによるタオルハンカチを主力商品としており、倒産した取引先で売り上げの約7割を締めていた。その状況の中で、当時、数%しか売り上げのなかった「風で織るタオル」に資源を集中することにより、平成19年には民事再生を終了している。

同社のタオルは「安心・安全・環境に優しい」という特徴を持つ。原綿はオーガニックコットンを使用し、染色には安心・安全な染料を用いる。赤ちゃんが口に含んでも安全といえる国際

基準エコテックス1を取得している。

また、精練漂白工程では従来の過酸化水素素に比べて環境に優しいオゾンによる漂白を行う。工場内の電力は風力発電で賄われており、環境に優しい「風で織るタオル」のブランドで展開している。

これらの徹底的なこだわりが、国内の環境に意識の高い顧客を始め、欧米のハイソサエティに評価されており、欧米への輸出が同社の柱の一つとなっている。



## 支援課題の設定とプロジェクトマネージャーの視点



中庭正人 プロジェクトマネージャー

平成20年当時、同社の課題は、

1) 運転資金の不足、2) 設備資金の不足、3) ベビー業界への進出の3点であった。

同社は強いコンセプトを持つブランドにより事業拡大のチャンスを持っていた。しかし、民事再生の影響にて新規資金の調達に苦労する。そのため、国内、海外からのオファーが有っても、運転資金の不足から断らざるを得ない事も

あった。

海外でのタオルはインテリアファブリックの一部であり、タオルとあわせてシーツ、カーテンの提供も要望されるが、設備資金の不足により対応できていなかった。

さらに、赤ちゃんが口に入れても安全なタオルという同社の強いコンセプトから子供服業界との親和性が高いと思われたが、経験、人脈の不足により開拓できていなかった。

そこで、資金の調達と、子供服業界の開拓を課題として設定し、支援を行うこととした。

## 支援内容と支援成果

まずは、ファンド in Tokyo への出展を支援した。当初はVCの出資は難しいかとも思われたが反応は上々で、数社と具体的な検討に入った。面談も順調に進み、平成20年8月末には6千万円弱の出資を受けている。

VCからの評価を受けたことで社長も自信を深め、株式公開を目指して事業を進めている。株式公開を目指すにあたっては、中小機構四国支部の株式公開チャレンジ塾に当社から参加し、株式公開までの流れと必要な知識を学んでいただいた。

この中で、今後事業を拡大していくため増資を続けると、池内社長の持株比率が低くなるこ

とが課題となった。当初、池内社長は、「民事再生で迷惑をかけた方に恩返ししたい。自分の権利等はどうでもよい。」との考えであったが、企業を安定的に成長させるためには社長の持ち分確保が必要とアドバイスし、資本政策の方向性を検討した。

資金面の目処が見ついた時点で、企業等OB人材派遣事業を活用し、ベビー服業界の開拓に百貨店のOBを派遣し、OBと一緒にベビー服メーカーへの販売戦略の立案を行った。その上で老舗ベビー服メーカーにターゲットを定め、想定されるニーズに向けて、OBのサポートを受けながら、アプローチを行った。

アプローチに時間はかかったが、平成21年秋より、大手ベビー服メーカーと取引が開始され、平成22年春にはさらに取引が拡大される見込みである。

## 経営者のことば

ある面、わがままな要望に応じて頂ける豊富な人材と、ネットワークを持つ中小機構四国支部の支援に感謝しています。特にファンド in Tokyoは当社のターニングポイントとなりました。今後、グローバル市場への進出強化を目指しており、引き続き支援をお願いします。

